



よこはま水環境ガイドボランティアを始めようとしている方へ

私にとってのボランティア

「よこはま水環境ボランティア」の活動を始めてから12年が過ぎました。私は民間企業で69歳まで働き、退職後このボランティアの募集を見つけ出し参加させて戴きました。現役時代とは全く畑違いでのボランティアで、当初知見はほぼゼロでした。それでも、豊富な経験と知識を持たれておられた先輩諸氏や、丁寧にサポート戴いた市の担当者、更にしっかりとした資料等に恵まれ、楽しく活動をスタートし現在に至っております。

私は30代後半に大病を患い約20年に亘り、闘病生活を余儀なくされました。その間、家族・会社は元より多くの医療関係者を始め、社会全体に大変お世話になりました。社会の支えや幸運・努力の結果、

何とか健康を取り戻し、更に子供達を社会に送り出すことが出来ました。

闘病時から、退職後の余生を独り善がりの安穩を求めて過ごすのは【天に唾する】様なものと意識しており、何とかお世話になった社会にどう恩返しが出来たかを考えてきました。

そこで結論として動ける間は、ボランティア活動で間接的に恩返しをすることに決め「よこはま水環境ガイドボランティア」の一員として汗を流す事にし、現在に至っております。

(イタチムシさん)



初心者でもどなたでも大丈夫です!

私は水環境ガイドボランティアに参加して15年目を迎えています。参加の動機は、もともと興味のあった環境問題の改善に、一市民として係わりたく思っていました。横浜市ホームページで、活動の存在を知り登録しました。

最初は下水道に関しての知識は皆無で不安でしたが、先輩の後ろについて見よう見まねからのスタートでした。活動の目的でもある環境教育関係では小学生の授業としての施設見学対応や学童たちへの出前講座において、小学生にもわかりやすい言葉で、できるだけ正確な説明が出来るよう、知識を少しず

つ深めてきました。ある意味、水環境の授業を預かっているため、子供たちの関心や興味に応えながら、責任を感じるとともに非常にやりがいも感じています。またイベント等で子供たちや親御さんとの接触を通じて、下水道のPRや環境意識の啓蒙にお役に立てれば、ボランティア冥利に思います。

ボランティア活動に必要な知識は、市から提供される講座や、先輩たちとの共同作業を通じ、どなたでも興味があれば全く問題なく始められると思います。大勢の方の御参加をお待ちしています。

(クマムシさん)



応募理由と今感じていること

知人が横浜市の水再生センターの施設見学会に参加した際、よこはま水環境ガイドボランティアの方からわかりやすく丁寧にガイドしてもらったとの話を聞いたのが最初でした。その後、募集要項を読み、担当者に連絡し、なんとか自分もやっていたいのではないかと思ったのが応募理由です。

ボランティア活動をした日は、適度な疲労と未知の人とのふれあいにより、充実した1日を過ごすことが

出来たことを実感できます。

横浜市職員とともに水環境啓発活動を行うため、心配することはありません。

応募資格は横浜市在住・在勤・在学の方で、本登録まで難しいことはありません。

やる気さえあれば十分です。

私たちと一緒に活動してみませんか。

(ツリガネムシさん)



市役所で活動のことを知りました

水再生センターを管理する市役所の施設整備課に行った際、ボランティアがあることを知って始めました。見学会やイベントの催し物の手伝いと、ボランティアの新聞の編集委員をしています。皆様とご一緒に、

15年余り活動させていただき、感謝です。ガイドなんて、出来ない、緊張してしまう方でも、できることから少しずつ慣れていけばよろしいと思います、ぜひ一緒に活動しませんか。

(アスピディスカさん)

私はこんな切っ掛けで活動を始めました

現役をリタイヤし、する事も無く部屋で閉じ籠り状態で過ごして居ました。外に出るのは数か月に一度、飲み友達と宴を開くこと以外無。カミさんがこのままでは認知症にでも成ってウロツクことに成るので、心配し始めました。カミさんは地域の運動クラブに入っていて、現状を嘆いたのでしょう。同じ運動仲間のYさん(ボランティアさんです。)の紹介で、水環境ガイドボランティアを紹介され、全く何の疑義も持たず素直に応募しました。

ボランティアに成って見て、驚いたのは右も左も全く判らなかつたことです。

私の場合、時期が悪かつたせいか、タイミング的に教育?勉強会?などは有りませんでした。しかし、事務局の担当の方が、気を使って下さり、ある日見学会のお誘いを受け参加させて頂きました。

さてさて如何しよう?の連続でした。もちろん以前にボランティア同士の顔合わせは有りましたが、しかし、それも数か月に一度程度ですから、次にお会いした時、顔と名前が一致せず、毎回、初対面と同様の有様でした。”これはまずい、積極的に参加して慣れるより慣れるだ!”と思い立ち、参加できる限り、行事に参加するようにして来ました。

1年が経とうとする頃、ようやく現実的に何をすることが判って来ました。下水処理場、イベントでの下水処理の説明案内、イベント会場でのお客様、特に子供達との交流がメインでした。現役時代、仕事であまり家に寄り着かなかつた私としては子供達との交流は数十年ぶりです。緊張しました!手足物言いが震えてしまうのではないかと思います。

困つたのは言葉使用です。相手は10歳前後の子供達ですよ。しかし、これは周りの先輩方を見て、感心させられる事多大でした。結局自然体なんですね。私が楽しくなければ、子供たちも楽しくないはずですよ。と云う事で、段ボールでミニシアのマンホールの蓋づくり、ストロートンボの製作など子供たちと一緒に作って楽しんで来ました。

今ではイベントへの参加が当たり前の様になり、楽しみの一つに成つた気がします。難しく考えるより、是非、まず飛び込んでみて下さい。ボランティア仲間との交流、見学者、子供達との交流。楽しいですよ。更に、下水道を通して、いろいろの事が見えてきたら幸いですね。

(バジニコラさん)



よこはま水環境ガイドボランティアの活動

横浜市の下水道は1980年ごろにかけて整備され、現在ではどの家庭にも汚れた水や雨水を集めるパイプがつながっています。普及率99.9%です。

ボランティア活動の場は横浜市などが主催するイベント会場、水再生センター等です。イベント会場では、ブースを訪れた市民の方に水をきれいにする仕組みを説明したり、大きな役割を果たす微生物を顕微鏡で見てもらったりします。各水再生センターでは社会科見学で訪れた小学生に、小グループに分かれて各設備を実際に見せて水をきれいにするプロセスを説明します。

年2回市の関連部門の職員の方と活動の円滑化を

図るための意見交換会を実施しています。また、ボランティアどうしの横のつながりのための機関紙(くまむし)を年4回発行しています。

最初は先輩ボランティアと一緒に活動します。また、研修会・勉強会といった機会もあります。慣れてきたらご自身で自分なりの説明が可能になってくると思います。

イベントなどで、水をきれいにする仕組みを知らない方は意外と多いです。説明を聞いて「そーなんですか」と感心された時は大変うれしいです。また、これから社会を担っていく小学生に説明することは大変良い広報と感じ、わかりやすく興味が持てる説明を心がけています。

(プレファリズムさん)

下水道ボランティアに参加した理由

横浜市広報の下水道ガイドボランティアの募集を見て「どの様なことをするのか」興味しんしんで応募しました。これまで家庭の排水は道路を伝わり、どこに流れて行くのかな、それぐらいしか考えていませんでした。水再生センターの仕組みなど、まったく知りませんでした。初めて水再生センターに行き、家庭からの汚水がこんな場所に集められて、きれいにされて川に放流している、こんな大事な作業をしているのか、これは子供達にも伝えなければと思い、ボラン

ティアに参加しました。

子供達に水再生センターの大切さを伝える事により、子供達の笑顔と真剣な眼差しや多くの方々の出会いにより少しずつ説明の仕方も変わり、自分自身にも勉強になりました。ボランティア活動に参加したお陰で、多くの方々とも知り合うことも出来ました。興味のある方、物は試し、是非ボランティアに参加して下さい。

何事もチャレンジしてみましょう。

(ロタリアさん)



一緒に下水道の
大切さを伝えましょう

発行:くまむし編集委員会

事務局:横浜市役所下水道河川局下水道施設部施設管理課

電話045-671-3969 FAX045-641-4870

[Email:gk-sekantyousa@city.yokohama.lg.jp](mailto:gk-sekantyousa@city.yokohama.lg.jp)